

氏名(本籍)	と き あ や の 土 岐 文 乃 (青 森 県)			
学位の種類	博 士 (デザイン学)			
学位記番号	博 甲 第 5960 号			
学位授与年月日	平成 24 年 1 月 31 日			
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当			
審査研究科	人間総合科学研究科			
学位論文題目	地方都市におけるにぎわい創出のための駐車場計画に関する研究			
主 査	筑波大学教授	博士(工学)	野 中 勝 利	
副 査	筑波大学教授	工学博士	安 藤 邦 廣	
副 査	筑波大学准教授	博士(工学)	花 里 俊 廣	
副 査	筑波大学教授	博士(工学)	藤 川 昌 樹	

論 文 の 内 容 の 要 旨

(目的)

現在の地方都市では、人口減少や少子高齢化などに伴い中心市街地における都市的活力の衰退などを背景として低・未利用地の増加による中心市街地の空洞化が課題となっている。その代表例が駐車場の増加であり、自動車の駐車という機能のみならず、多機能・複合用途による駐車場活用が求められている。そこで本論文では、自動車の駐車だけではなく、まつりやイベントなどの開催により、人の集まるにぎわいを創出する場として活用できるような駐車場にするための計画課題を明らかにすることを目的としている。

(対象と方法)

自動車のために計画された駐車場の空間的特徴と人の集まる場としての利用の関係に着目し、空間と利用という二つの側面から駐車場活用の事例を相対化し、駐車場計画の課題を導いている。

調査対象は、モータリゼーションの進展等に伴い駐車場が多くみられる一方、駐車場用地の活用事例も比較的多くみられる茨城県としている。そして公園や広場とは異なる駐車場の機能性、立地、規模、空間的特性から、①水戸中心市街地内に散在する駐車場、②大規模ショッピングセンターの駐車場、③駐車場を含む駅前広場、の三つの駐車場形態を取り上げている。

これら三つの駐車場形態ごとに、平面的特徴と周辺環境および立地との関係から空間パターンを抽出し、次いで駐車場をまつりやイベントで利用した運営主体、その利用内容および利用方法から利用パターンを抽出した。そしてそれらの関係から活用類型を導き、駐車場活用の可能性を示すとともに、にぎわい創出のために利用できる駐車場の計画課題を明らかにした。

(結果)

以上の分析結果から、駐車場の計画プロセスとして、立地により異なる利用内容や利用範囲を想定した計画の必要性を指摘し、利用内容に応じた空間的分節とその規模や向き、利用者の集散や利用内容を規定しない動線の通り抜け、利用目的に応じた自動車動線と駐車スペースの配置に関する計画課題を明らかにした。

(考察)

最近では駐車場をまつりやイベントで利用する事例が少しずつ増え、既定の駐車場空間を利用する工夫も

みられる一方、その駐車場空間が利用内容を制約することもある。地方都市においてにぎわいを創出するために空地を利用する場合、駐車場用地を利用することは立地や規模などの観点から利点があるという可能性を示すことができた。駐車場において自動車の「移動」と「駐停車」という機能だけではなく、人が集まる「移動」と「滞留」という機能を想定した広場の利用を前提とする駐車場計画にすることは、地方都市のにぎわいを誘発する場の創出として有効である。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、現代の地方都市が抱える低・未利用地の増加を背景とした中心市街地の空洞化という課題に対する一つ切り口を提示した点で、独自性が高く意義のある研究である。多くの駐車場に対する周辺環境を含む空間の実態や他用途での利用実態を丹念に調査し、その分析においては信頼性のある方法論を用いている。論文の一部は日本建築学会等においての投稿査読論文が採用されており、当該領域の学術進展に寄与する有用な結論を得ている。この有効な知見をもとに今後の地方都市における駐車場計画への応用とそれによる地方都市のにぎわい創出に寄与する発展が期待できる。

平成 23 年 11 月 25 日、博士（デザイン学）学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（デザイン学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。